

日時・場所	令和元年12月2日(月)8時45分～ 庁議室
出席者	山仲市長、瀬川議会事務局長、竹中政策調整部長、吉川病院事務部長、 小山総務部長、三上総務部政策監、田中市民部長、高橋健康福祉部長、 赤坂健康福祉部政策監、野崎都市建設部長、遠藤環境経済部長、杉本教育部長、 吉田政策調整部次長、北脇広報秘書課長、事務局(企画調整課)

1. 市長指示事項

- ・昨日、民生委員・児童委員に新たに選任された方への委嘱状の伝達と退任された方への感謝状の授与の式が行われた。完全ではないが、ほぼ全ての地域の民生委員・児童委員を選出いただいた。民生委員・児童委員の役割は大変重要であり、市民サービスの色んな分野で関わりがある。一方で、負担が増しているのも、市のサービスの中できちんと担っていかないといけない部分との役割を調整しながら、一緒に市民のために取り組むようにして欲しい。
他市では定員が大きく欠け、厳しい状態のところもある。野洲市では自治会長にご苦勞をいただき、協力いただいてほぼ健全な形でできているということを理解してもらいたい。
- ・計画にはスケジュールがあるが、そこには何のためにやっているのかという狙いが無いといけない。その裏には理念や目指すべきものについての考え方がある。
野洲市では滞納への対応についての視察が多く、私も頼まれて講演に行ったりしているが、他自治体では滞納整理の数字を主眼に置いてやっているため、段々厳しくなっているようである。滞納はもちろん許されないが、野洲市では滞納の裏に隠れているものをしっかりと位置付けて、市民生活を壊さず支援するという形でやっている。これも狙いがあってのことであり、滞納の率だけに着目すると、単なるスケジュールと数字になってしまう。これは滞納に限った話ではなく、他の分野でも同じことなので、狙いを定めて取り組むように心がけてもらいたい。
- ・仕事の協議の中で、やめても良いことを引きずっているような事例が見受けられる。パソコンやスマホではジャンクファイルを整理したり、私たちの生活では毎日の代謝が存在するように、新しいものを摂取し、要らないものを廃棄していく必要がある。業務でも全く同じことで、積極的にやめるものや優先度の低いものを見極めて仕事をしないと、人も資源も足りない。時代の動きが激しいので、そこは意識的にやってもらいたい。

2. 議題

① 永原御殿跡の事業計画について

令和元年11月15日、文化審議会から文部科学大臣に対し「永原御殿跡」の本丸、二の丸のうち約32,000㎡を国史跡とする答申が出され、年度内には史跡に指定される運びとなった。これを受け、令和2年度には①保存活用計画の策定、②史跡の公有化、③発掘調査、④活用事業の4つの事業を計画している。

→国の補助金を前提に実施することを追記すること。

→資料の中で範囲という表現が複数使われているが、分かりにくいいため整理すること。また、今回指定される範囲内に残される部分について、「除外された範囲」等、分かりやすく修正すること。

3. その他伝達事項

- 調整会議で、砂川廃川敷地の不法占用に関する件については、目的が分かりづらいため再度付議となっているが、情報共有が狙いではなかったか。
→そうである。12月の全員協議会で報告するために進めている。

- 美和コーポの解体について、隣接するA棟の家屋調査に係る同意に時間を要しているが、目途は立ったのか。
 - 先週、所有者を訪問して一定の理解が得られた。現在、契約締結のため、契約内容の確認をいただいているところである。
 - 危険だからやるのであり、時間をかけていたら他の問題が生じてくる恐れがある。スケジュール感を持ってやって欲しい。
- 先日開催された入札監視委員会の結果は全員協議会へ報告するのか。
 - 報告する。全員協議会から質問されている事項があるため、その内容を回答する。

4. 次回部長会議の予定

12月9日（月） 議会終了後 庁議室